

仮定法過去の指導及びテスト

甲斐 順

1. はじめに

「仮定法過去」を本格的に学習するのは、高等学校1年生になってからです。まず「仮定法過去」という聞きなれない文法用語に始まり、現在の事実と異なることを仮定(想定)するのに過去形を用いて表現することは難しい文法事項の一つであると言えるでしょう。

Swan (2016)は、“If I knew her name, I would tell you.” “What would you do if you lost your job?”を例文として挙げた上で、“we use past tenses and *would to ‘distance’ our language from reality*”と述べています。過去形と *would* を用いることで、現実と離れていることが表現されていることが理解できます。

卯城(2014)でも仮定法過去について、過去形を用いることで、Swan が述べているような「現実との距離感=非現実」について触れています。助動詞に *would, could, might* を用いることについては、非現実を意識した表現のため現実性を感じさせる *will, can, may* を用いないと述べています。卯城は指導のポイントをこのように指摘した上で、教員が関心ある歴史上の人物について語る場面から仮定法過去を導入し、「もしも歴史上の人物に会えたなら」や「教室に欲しいもの」を理解のための活動として紹介しています。

筆者は、卯城とは異なる場面を設定して、仮定法過去を指導し、練習させています。以下で筆者の指導及びテストについての実践を紹介させていただきます。

2. 指導

仮定法を導入するのに筆者がよく使う手は、その日に筆者がいくら持参しているか生徒に示した上で、“I don’t have one million yen now.” と言い、生徒たちに、“Do you have one million yen now?” と

尋ねます。ほとんどの生徒が“No.”と答えますから、“What would you do if you had one million yen now?”と質問し、“If I had two million yen now, I would buy a new car.”と自問自答してみせます。生徒にもう一度自問自答を聴かせた後で、ノート等に筆者の発言を書き取るように促します。had の /d/ をやや強調して発音しているうちに、「have じゃなくて、had と言っている」とささやく声が聞こえてきたらしめたものです。その後自問自答した英文を対話文形式に板書し、had や would に下線を施し、過去形を用いていることに生徒の注意を向けます。そして、“I lived in Tokyo.”と発し、生徒に lived の持つ意味を考えさせます。そして、この“I lived in Tokyo.”は、「今は東京には住んでいない」という答えを生徒から引き出します。仮定法過去で用いている過去形が、現在はそうでないこと、現在の事実とは異なることを説明します。

次に、板書した英文の発音練習を行い、buy a new car を置き換えて、ペアによる対話活動に入ります。複数のペアで対話後、生徒を指名し全体で共有します。“I would buy a new house.”や“I would buy comic books.”などの発言がありますが、「寄付する」に相当する英語を使う生徒が出てくると「へえー」などの感嘆の声が漏れてきます。

次の段階として黒板に What would you do if you were Doraemon? / If I were Doraemon, I would / could... と板書します。仮定法ではありえないことを想定するために、主語が I(単数)であっても were を用いることを教えます。そして、数人に尋ねてみますとタケコプターを使うなどの表現が出てきます。理解を確認するために、古紙を配付し、If I were Doraemon, I would / could... に続けて、英文を書くように指示するとともに、そのほかにも仮定法過去を使って表現してみるよう促します。一通り書けた頃合いを見計らって、隣の席の生徒と共

有させます。その後、提出させて理解を確認します。
平成 28 年度の現任校高校 1 年生のあるクラスの生徒たちが書いたものの一部(原文のまま、以下同様)を紹介します。

(ドラえもん)

- ・ If I were Doraemon, I wouldn't help Nobita.
- ・ If I were Doraemon, I could go back to my past.
- ・ If I were Doraemon, I could eat many Dorayaki.
- ・ If I were Doraemon, I could change the world.
- ・ If I were Doraemon, I could use a lot of useful goods. / I would be used many times by Nobita.
- ・ If I were Doraemon, I could visit all over the world with Dokodemo-door.
- ・ If I were Doraemon, I could eat Anki-pan for the test.
- ・ If I were Doraemon, I would not need to study.
- ・ If I were Doraemon, I would translate many languages.

(その他)

- ・ If I had much money, I could become lazy.
- ・ If I had a lot of money, I could sing karaoke with my friends.
- ・ If I were a candidate of American president, I would live in white house.
- ・ If I were rich, I could travel all over the world.
- ・ If I were my mother, I could be more kind.
- ・ If I got a large money, I might go to the other high school.
- ・ If I were a British, I could speak English fluently.
- ・ If I were a dancer, I could dance all day and night.
- ・ If I were an EXILE's manager, I would meet EXILE.
- ・ If I were another high school student, I would spend life without difficulty.

- ・ If I got more time, I could study.
- ・ If my brother were a girl, he would be so pretty.
- ・ If I were a clock, I couldn't rest.
- ・ If I were a cat, I could sleep all day.
- ・ If I were God, I could control all people.
- ・ If I were poor, I might be helped by the rich.
- ・ If I were clever, I could enjoy my life.
- ・ If I were smart, I could get high points in the test.
- ・ If I bought a large house, I would make a little library in my house.
- ・ If I were Ichiro, I could play baseball well.

一人ひとりが書く英文は十人十色。読んでいて飽きることはありません。ここにご紹介したのはあるクラスの一部の生徒の英文にすぎません。他のクラスを含め、この他にもいろいろな英文を編み出してくれました。生徒の作品にはいつも感心させられるばかりです。

別の日の授業では、仮定法過去が使われているエリック・クラブトンの Change the World や Tears in Heaven も紹介し、実際に使われている表現であることを実感してもらいました。

3. テスト問題と生徒の解答

平成 28 年度のコミュニケーション英語 I の学年末テストでは、次のような出題を考えました。

1. What would you do if you found a wallet with a lot of money in it? Answer in English.
2. What would you take with you if you had to move to another planet? Write one thing and explain why you need it. You should write your sentences like this: "I would take ... because..."
3. 次の絵を見て、She thinks, "If I に続けて、英語で書きなさい。(絵は省略)
[絵の内容]
吹き出しの中に鳥が飛んでいて、机に座っている女の子が空を飛ぶ鳥を想像している。
She thinks, "If I _____."

(1について)

この質問は Baleghizadeh (2012)で紹介されているもので、多くの生徒が交番や警察に届け出るということを予想して出題してみました。予想通り、I would take it to the police station.などの解答が多く出ましたが、中には次のようなものもありました。

- ・ I would take it and use the money to buy sweets.
- ・ I would buy a lot of comic books.
- ・ If I found a wallet with a lot of money in it, I would build a big house.
- ・ I would go to the bookstore and buy many books.
- ・ I would steal the wallet.

道徳的には問題がありますが、生徒たちの正直な気持ちを表していると言えるでしょう。あくまでも仮定の話。きっと生徒たちは警察に届けてくれると信じています。

(2について)

無人島も考えてみましたが、別の惑星だったらどのような発想を生徒たちがするのか知りたいと思い出題してみました。

- ・ I would take camera because I want to take pictures.
- ・ I would take some pictures of the earth because I like the earth.
- ・ I would take my friend because I would be lonely if I were alone.
- ・ I would take my sister because she helps me a lot.
- ・ I would take much water because I couldn't live without water.
- ・ I would take a lot of foods because I don't want to die.
- ・ I would take my mobile phone because I need a lot of information.

カメラや水、食べ物と解答した生徒が複数いましたが、母親が useful なので連れていくと解答した

生徒もおり、この設問に対する解答も楽しく読ませてもらいました。

(3について)

「鳥だったら、飛んで行けるのに」が一頃テレビのコマーシャルで流されていましたが、和文英訳ではつまらないので、絵からどのように発想するか出題してみました。"If I were a bird, I could fly in the sky."などの解答が多かったものの中には次のようなものもありました。

- ・ If I were a bird, I would be free.
- ・ If I could fly just like a bird, I would be happy.
- ・ If I were a bird, I could move quickly.
- ・ If I drew a picture, I would draw a bird.

最後の英文は予想外でした。こういう発想も大事にしたいところです。

生徒の作文の中には、would/couldではなくwill/canを用いている生徒もいました。仮定法過去の学習に時間をかけたつもりでいても、生徒にとってやはり難しい文法事項の1つであることは間違いありません。より丁寧な指導が必要であると反省しています。

4. おわりに

型にはまった英文の暗記も大事ですが、生徒が言ってみたい表現や発想を大切にすることが大事だと筆者は考えています。ここでご紹介した仮定法過去の指導とテストは、ささやかな実践であり、改善の余地もあるかと思えます。さまざまな観点からご教示いただければ幸いです。

引用文献

- Baleghizadeh, S. (2012). A grammar grid. *Modern English Teacher*, 21(1), 62-65.
- Swan, M. (2016). *Practical English Usage* (fourth edition). Oxford: Oxford University Press.
- 卯城祐司(編著). (2014). 『英語で教える英文法：場面で導入、活動で理解』 研究社.